

Ⅱ. 計画の基本理念と基本方針

1. 基本理念

本町は、“大磯町「緑の基本計画」策定に向けての提言* 平成 12 年 10 月”で大磯に対して思い描くイメージについて「海を南に、緑深き山々に抱かれた地」と言われているように、海岸部の水辺や金目川、不動川、葛川などの河川、北部の山地や丘陵地の緑、海と山に挟まれたまちにより形づくられています。山地や丘陵地の緑は豊かな水を蓄え、大気を浄化し、そこから流れ出る河川は、流域に水を供給し、様々な動植物を育むとともに、人々に安らぎと楽しみを与えてくれます。また、海岸や河川の水辺、丘陵地の緑と数多く点在する神社仏閣などの資源は、大磯に暮らす人々が醸成してきた自然や歴史、文化と一体となった緑と水辺の空間を見せてくれます。

本計画は、これらの貴重で豊かな水辺と緑の環境を守り、継承するとともに、将来に向け、『人と自然が共生し、豊かな山の緑と海の恵みを受け、快適な暮らしを営める、水と緑づくり』を行うことを基本理念とします。

基本理念の実現により、人は季節の移り変わりや自然を身近に感じ、生活は潤いと安らぎで満たされ、まちには人と水辺と緑の多様な交流環境が誕生します。

* 大磯町「緑の基本計画」策定に向けての提言

平成 12 年 10 月に公募による町民や学識経験者により結成された「自然環境保全と緑化推進検討チーム」によりまとめられた。現状における問題点を踏まえ、緑地の保全箇所として「大磯の顔となる緑地」、「質及び量としての緑」、「緑地の保全・推進のための手法」、「緑の基本計画策定に向けて」を検討している。

基本理念

人と自然が共生し、豊かな山の緑と海の恵みを受け、快適な暮らしを営める、水と緑づくり

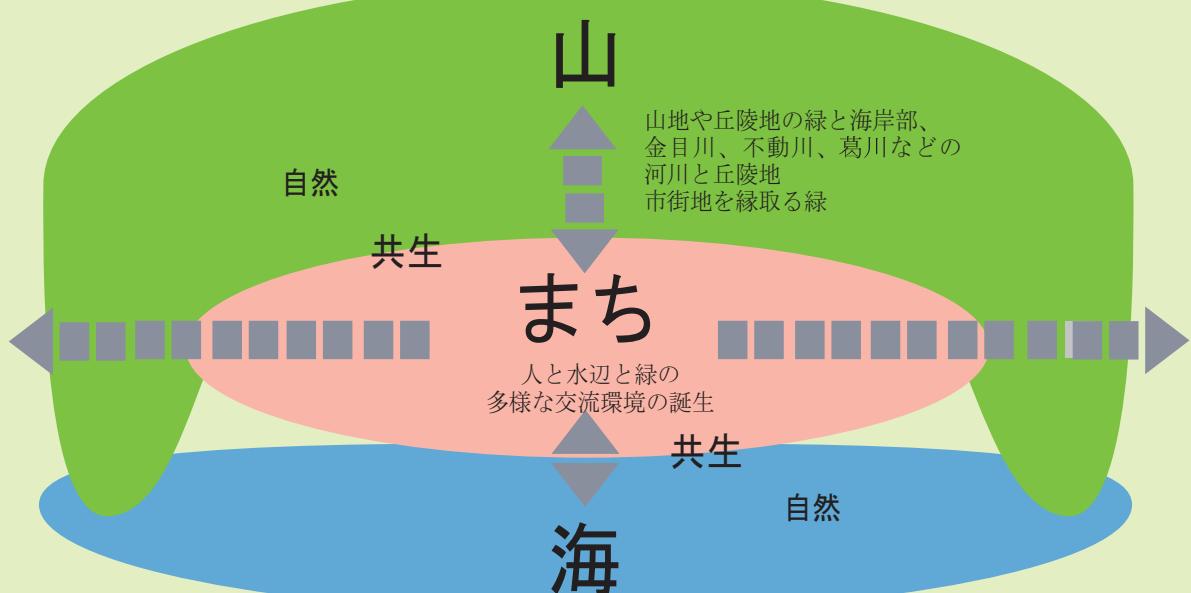
■ 基本理念のイメージ

背景

育まれてきた自然・歴史・文化：山間部・丘陵地・海辺・東海道・大磯港・史跡・寺社など

総合計画の施策の大綱

豊かな自然と歴史が調和した風格あるまち



課題

都市化の波と失われる自然
都市の利便性の向上
都市施設と交通体系の整備

2. 緑の将来像

大磯の水(海と川)と緑(まちと山)の特性と課題をベースに、総合計画のまちづくりの将来像「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」と本計画の基本理念である『人と自然が共生し、豊かな山の緑と海の恵みを受け、快適な暮らしを営める、水と緑づくり』を将来の方向性として、次の緑の将来像を設定し、P23に「緑の将来像図」を提示します。

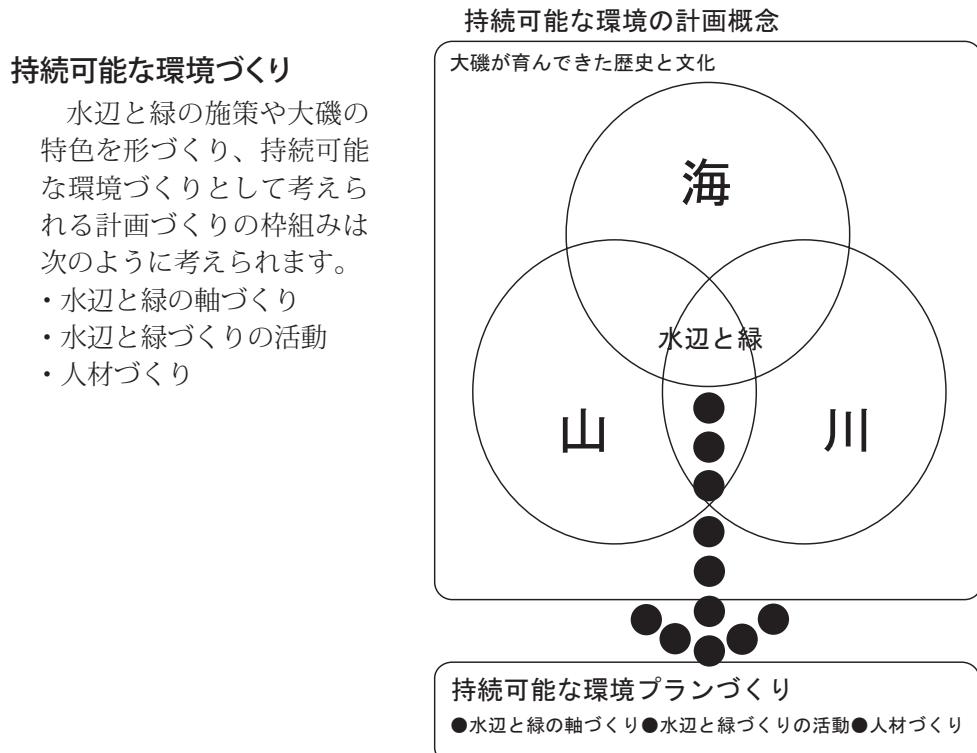
緑の将来像

広がる海と緑豊かな山が語り合うまち 大磯

緑の将来像を実現する視点

持続可能な環境づくりを緑の将来像を実現する視点と考えます。

都市化の進展、自動車利用の増加による排気ガス、二酸化炭素の発生、木材利用による森林伐採の拡大などにより、温暖化の進行や異常気象の発生など地球環境に対する負荷が高まっていることが予想されています。大磯はそのような中でも、海と山の水と緑が残され、市街地にも歴史と文化を感じさせる緑の環境が継承されています。この大磯独自の“水辺と緑を守り、育て、創りあげていくこと”、そして行政がこれを支援し、地域の特色を活かしつつ緑に関わる施策を総合的、体系的に実践していくことが求められています。本計画は概ね20年後の将来計画を立案することを目的としていますが、“緑と水辺を守り、育て、創りあげていくこと”のためには、持続可能な環境づくりが必要となります。



- **緑の環境軸**
北西部の丘陵地、山間地を結ぶ東西の軸を緑の環境軸とし、環境の保全とともにビオトープネットワークや景観形成などを行ないます。

ビオトープネットワーク
ビオトープとは、生物の多様な生息空間を意味する。ビオトープネットワークは、生物の移動を確保するため、ビオトープを道路空間や河川等の空間を利 用してネットワーク化することである。

環境(山と丘陵)の環境軸
(水と緑)

緑の環境シーン(田園・丘陵地)

●緑の環境ゾーン
北の丘陵地・山地・山間地は、森林を保全、育成し、貴重な水源としての環境保全を図ります。また、これと調和したレクリエーションと共に、この場の整備を図ります。

●水と緑の暮らしのゾーン
人々が暮らす場において、地域の特性を活かした身近な水と緑の環境の保全と創造を図ります。

水と
(k)

An illustration of a coastal landscape. On the left, a green area with a grid pattern represents land. In the center, a blue wavy line represents the sea. A winding blue line, representing a river, flows from the land into the sea. The overall image represents the 'Water (Sea) Environment Axis'.

●水(海)の環境軸
町の南に広がる海岸線を水(海)の環境軸として、海岸部の水と緑の環境の保全や景観形成を図り、河川などの水の軸になります。

●緑のネットワーク形成
歴史的な環境が残されて
緑の骨格と
市街地の緑地、
公園・緑地、
緑のネットワークの形成

- **水の軸** 海岸と金目川、不動川、葛川など
の良好な水辺の環境を保全し、こ
の環境を活かした水と緑の軸を形
成します。

- ● 緑(山と丘陵)の環境軸
- ● 水(海)の環境軸

The image contains two decorative icons. On the left, there are three vertical blue bars of increasing height from bottom to top. On the right, there is a circular icon composed of green segments, resembling a stylized sun or a gear.

まちの拠点

3. 計画の基本方針

ここでは、「水と緑の現状と課題」、「現地調査」、「環境に関するアンケート調査」、「緑の基本計画策定に向けての提言」などの把握を踏まえて、「計画の基本理念」と「緑の将来像」を背景として、計画の実現を図るために、「地球環境」「まちの活性化」「暮らしの場」「やさしい都市環境」「人と人・地域」の5つの視点から分析し、次に掲げる5つの「計画の基本方針」を導き出しました。

これに基づき、緑地の配置計画や水辺に係る施策の展開を図っていきます。

【基本方針の設定の見方】

表の左の縦軸の項目には、「水と緑の現状と課題」、「現地調査」、「環境に関するアンケート調査」、「緑の基本計画策定に向けての提言」で把握された内容を、上部の横軸には「地球環境」「まちの活性化」「暮らしの場」「やさしい都市環境」「人と人・地域」の5つの計画の視点を配し、交わる軸において、結びつきがあるものに○印を付けた。この印の互いに関係のあるものを色で囲み、これをまとめる言葉を「計画の基本方針」として5つ導き出した。

■基本方針の設定

○課題	○計画の視点					○計画の基本方針
	地球環境	まちの活性化	暮らしの場	やさしい都市環境	人と人・地域	
課題1 水と緑の現状から	地球温暖化 生態系 循環型社会	地域性 独自性・個性化	波及効果 ネットワーク コミュニティの形成	生活環境の向上 リサイクル・省資源 バリューフリー・ユーバーサル	市民活動の活性化 人材育成 交流人口の拡大	● 強い結びつきがある ○ 結びつきがある
課題2 現地調査から	暮らす人々の自主的な緑化への支援 公園緑地の管理への協力 身近な場所における緑化の検討					基本方針1 海と山とまちの骨格をつくる
課題3 環境に関するアンケート調査	高麗山や鷹取山など緑が豊かなまち 温暖な気候に恵まれたまち 高麗山や鷹取山、こゆるぎの浜などの保全 環境にやさしい生活を心がけている 開発に対する抑制策の充実 学校教育、市民団体活動の充実					基本方針2 暮らしの中に緑を育む
課題4 水と緑の特性と課題から	環境保全機能 レクリエーション機能 防災機能 景観構成機能					基本方針3 歴史・文化を繋げる緑を創造する
課題5 「緑の基本計画」策定に向けての提言	緑地の保全箇所 緑地の保全・推進のための手法 「緑の基本計画」策定に向けて					基本方針4 海と山の交流を形成する 基本方針5 海と山を育てる

基本方針 1

海と山とまちの骨格をつくる

本町の特色である山地や丘陵地の緑、海岸部の水と緑の環境、河川など豊かな水と緑の環境の保全を図るとともに、町民が身近に利用する公園緑地や憩いと交流の場となる緑の拠点の整備を推進し、これらをネットワークする水と緑の骨格をつくります。

基本方針 2

暮らしの中に緑を育む

本町では、山や川、海などの自然をはじめ、山地や丘陵の斜面の緑、市街地の樹林や松並木、神社仏閣など豊かな緑の環境が育まれてきました。このような豊かな水と緑を守り、育てていくために、身近な暮らしの中に水と緑を育む取り組みを進めていきます。

基本方針 3

歴史・文化を繋げる緑を創造する

東海道、大磯港、数多くの神社仏閣と様々な歴史・文化資産があり、様々な行事が年間を通して催されています。また、新たな運動公園の整備も進められています。本町の特色ある歴史を継承するとともに、町民の文化・レクリエーション活動を支える水と緑づくりを進めます。

基本方針 4

海と山の交流を形成する

豊かな自然環境を有する高麗山から鷹取山に連なる山地や丘陵地、金目川、不動川、葛川、海岸部などの水辺において、山と海の資源を活かし、人と人、人と海と山の交流を形成します。また、交流を支える拠点の整備や海と山の情報の受発信、人材の育成の仕組みをつくります。

基本方針 5

海と山を育てる

山地や丘陵地の豊かな森林は木材を生産するだけではなく、水を蓄え、大気を浄化するとともに、山崩れや土砂の流出、洪水等の災害を防ぐなど、多様な機能を持っています。市街地に隣接する丘陵地などでは、町民と協働して里山的な山づくりを進めます。また、海や川などの水辺は、水質の浄化や多様な水辺の生物を育むばかりではなく、町民のレクリエーションの場としても重要です。これらの水辺を町民と共に守るとともに、自然環境の再生や環境と調和した活用を図ります。